



# 大阪プロバスクラブ

会報 第380号

2023年5月10日発行

Monthly Bulletin of

The Probus Club of Osaka

例会会場：ホテルモントレ大阪 06-6458-7111

例会日：(原則) 毎月第2月曜日 12時より14時まで

○創立 2001(平成13)年7月9日創立記念式7月16日

○スポンサークラブ：箕面千里中央ロータリークラブ

○友好クラブ：箕面ロータリークラブ

○会長：有竹正巳 ○幹事：西宮富夫 ○事務局：(幹事宅)

〒563-0022 池田市旭丘2-6-25 Tel: 090-7496-5096

○会報担当：西宮富夫 [pxi06603@nifty.com](mailto:pxi06603@nifty.com)

○会報ホームページ：<http://osakapurob.exblog.jp/>

○全日本プロバス協議会：<https://www.all-japan-probus.com/>

○日本のプロバスクラブ・関西 Blog 版

<http://probuscent.exblog.jp/>

令5年4月初旬から5月初めまで1か月間の更新分(順不同)

クラブ	会報	記事一部
赤穂	会報第45号	10月例会「研修旅行(3年ぶり、兵庫県警本部・県庁・人と防災未来センター)」、同好会活動報告、他
旭川	会報第213号	3月ひな祭り例会:旭川市長今津寛介様(古巣の当クラブで講演)、全日本プロバス会長、幹事長もご参加、他
東京八王子	プロバスだより第329号	卓話「仏像の見方 仏の心再発見」第2回(内山雅之)、万葉集の中のユーモラスな和歌(雅)、他
北九州	つながり第202号	卓話「落語」ぎんなん落語会(ボランティアの会)、同好会活動報告(風の会、食美会、他)、他
奈良	会報第107号	ふれあいスピーチ(藤田久子様、北野美佐子様)、「茶」も「茶の湯」も先進地—「空海さんの種子が実を結んで」・他
姫路南(二水会)	会報第116号	卓話「食の安全保障」稲田会員、「4万kmを歩いた男伊能忠敬の「人生二度有り」(その19) 松下秀明、他
神戸北	5月例会のご案内	4月6日野外研修「観桜会」(会員6名ゲスト7名)、クラブOB 監崎章様が会員復帰、「ひとこと」弾昌子、他
大阪	会報第379号	卓話「縄文時代に関する新仮説紹介(東北大学名誉教授田中英道氏の仮説)」西宮富夫、他

## ●花の街 (作詞：江間章子、作曲：団伊玖磨)

七色の谷を越えて 流れていく風のリボン  
輪になって輪になって 超えていったよ  
春よ春よと かけていったよ

美しい海を見たよ あふれていた花の街よ  
輪になって輪になって 踊っていたよ  
春よ春よと 踊っていたよ

前回 第380回 観桜会 2023年4月12日(水)  
会場：花外楼 12:00~15:00

## ◎第380回 観桜会「花外楼にて」

○司会進行：野村尚子会員

○有竹正巳会長挨拶あり

○観桜会：15名参加(会員11名、ゲスト4名)

司会：浅山紀久子親睦委員長

## ○ホテルから例会開催条件が提示

ようやくコロナも過ぎ、ホテル利用の増加が見込まれるなかで、ホテルから当クラブにとって厳しい例会開催条件(人数及び食事費)が提示されたが、条件をクリアすべく努力することになった。5月にホテルの提示条件をクリアできたかを検討する予定となった。大変厳しい状況にある。

## ◎移動例会報告「今日は観桜会で「花外楼」に来ています」広報・西宮富夫会員

今日は移動例会で北浜・花外楼に来ています。ここは1875年(明治8年)に開催された「大阪会議」の地ですが、この辺りには幕末から明治にかけて有名になった建物、例えば適塾(現在は大阪大学が管理)、元五代邸の日銀大阪支店などがある。せっかくの機会ですのでこれらに触れてみます。料理はとてもおいしかった。

(下地図 Google map より作成)



## ●花外楼

★花外楼の創業(1830年)(船場ガイドブック2021掲載「船場ホテル今昔」より引用)

花外楼は、加賀国から大阪にやってきた伊助が、江戸時代後期の1830年(天保元年)北浜1丁目に料理旅館「加賀伊」を開いたのが始まり。

ときは幕末、このあたりは浜に面して船を横付けにでき、大川を上れば京都、下れば薩長の蔵屋敷に近いという事もあり、幕末の志士たちもこの辺りを定宿にしていた。「加賀伊」の伊助は非常に男気があり、幕末動乱の

今回 第381回 通常例会 2023年5月10日(水)  
会場：ホテルモントレ大阪 12:00~14:00

## ●大阪プロバスの歌 (作詞：渡辺 孟 補詩：田村徳郎)

- ①プロバスクラブへ集まろう 気の合う仲間とお昼時  
元気に歌おう会の歌 第二の人生また楽し
- ②プロバスクラブに集まって 優しく気軽に話そうよ  
見せたい自慢の得意技 遊びのプランもまた楽し
- ③プロバスクラブに集まれば 高まる奉仕の心意気  
世界に広がる和の願い 明日も愉快地に生き抜こう

頃、薩長の志士を身をていしてかくまい、時には彼らの連絡役を務めたともいわれる。天井裏には4～5人が隠れることができる部屋もあり、伊助の人柄を慕い、幕末の志士たちが集う場所となっていた。なかでも、桂小五郎（のちの木戸孝允）が加賀伊を定宿にしていた。



初代加賀伊

★大阪会議（1875年）（以下、文・画像とも五代友厚 Wikipedia より抜粋引用）

大阪会議は明治8年（1875年）2月に明治政府の要人である大久保利通・木戸孝允・板垣退助らが大阪府に集い、今後の政府（立憲政治の樹立）および参議衆就任等の案件について協議した明治憲政史上特筆すべき重大会議である。

会議にいたる背景は、征韓論をめぐる明治六年政変（中略）などで、大久保一人が政治を任される専制体制になった。（中略）この情勢を憂い、混迷する政局を打開すべく、五代と同じように官界を去っていた井上馨が「大久保・木戸・板垣」による連携の必要性を説き、伊藤博文や五代友厚らとともに仲介役として大阪会議を開くのだった。



大阪会議開催地にある大久保利通（上左）・木戸孝允（上中央）・板垣退助（上右）・伊藤博文（下左）・井上馨（下右）のレリーフ

しかし、三者の思惑はまったく別のもので  
 大久保 → 木戸を政府に戻して政権を強化したい  
 木戸 → 政府に戻る代わりに政府改革要望  
 板垣 → 木戸を通して立憲制を強く要望

という考えで、なおかつ、大久保は木戸のみと組みたいのに対し、木戸は板垣がいないと政府には戻らない意向だった。

この不一致を穏便にまとめた人物の一人が五代だ。五代の斡旋があり、五代邸は大阪会議の準備会談の場として使われ、大久保や伊藤らが何度も往復したという。大久保は下準備のためにおよそ一か月間も五代邸（現在の日銀）に入り、年末年始を五代邸で過ごした。他方、木戸も来阪すると五代邸に大久保を訪ね、碁を囲んだ。

（中略）このように大久保の相談役そして、板垣退助との仲介役としてこの不一致を穏便にまとめた五代友厚らによって、大阪会議を成功へと導いた。

この会議の結果、板垣と木戸が参議に復帰し、4月14日

に政体改革に関する大詔が発せられ、漸次立憲政体へ移行することが国是となった。

この会議の成功を祝って「木戸孝允」より贈られた屋号が「花外楼」であり、以来政界や官界の大立物が、続々と出入りされることとなった。



「明治8年2月」と読める。

●大阪証券取引所設立（1878年）（文・画像とも五代友厚 Wikipedia より抜粋引用）



五代友厚



現：大阪証券取引所

★大阪は江戸期の金相場会所以来、金融取引の活発な地であり、今日まで大阪経済の発展を担ってきた。薩摩出身の五代友厚は明治11年（1878年）、大阪株式取引所の設立に尽力し、大阪の発展に多大なる功績を残した。

（中略）友厚は鴻池、中井由兵衛（三井）、広瀬幸平（住友）、白木保三（加納）らとともに発起人となり、さらに広瀬とともに創立事務委員に就いた。

★大阪商法会議所設立（1878年）（同 Wikipedia より）

明治初期、維新変動の波を受け、大阪経済が低迷する。銀主体の商取引の廃止や藩債の整理による富豪や両替商の資産消失が主な原因であった。この事態を打開し大阪経済の復活を願って財界指導者の有志15名が明治11年（1878年）7月に大阪商法会議所設立の嘆願書を大阪政府に提出。これが今日の大阪商工会議所の礎となる。嘆願書の集め方は五代らしい強引な勧誘で、決め文句は「万が一、後に会へ加盟を申し込んでも拒絶、もしくは巨額の入会費を徴収する」で、結果的に60人の同志を獲得した。

●適塾（1838年～1868年）（以下、文・画像とも Wikipedia より引用）

適塾（てきじゅく、正式名称：適々斎塾 くてきてきさいじゅく）は、緒方洪庵が江戸時代後期に大坂船場に開いた蘭学の私塾。1838年（天保9年）開学。緒方洪庵の号である「適々斎」を由来とする。（会報担当：1868年適塾閉鎖。現在は適塾が前身の大阪大学が管理とのこと）

★特徴

適塾の開塾二十五年の間には、およそ三千人の入門生があったと伝えられている。適塾では、教える者と学ぶ者が互



いに切磋琢磨し合うという制度で学問の研究がなされており、明治以降の学校制度とは異なるものであった。塾生にとっての勉強は、蔵書の解読であった。「ツーフ」(ツーフ編オランダ日本語辞典)と呼ばれていた塾に1冊しかない写本の蘭和辞典が置かれている「ツーフ部屋」には時を空けずに塾生が押しかけ、夜中に灯が消えたことがなかったという。



緒方洪庵



現：適塾 (Google map より作成)

### ★閉塾後

1869年(明治2年)、後藤象二郎大阪府知事、参与小松清廉の尽力により、現在の「大阪市天王寺区上本町四丁目」の大福寺に浪華仮病院および仮医学校が設立される。(中略)大福寺の施設の提供を受けて、一般の病気治療と医師に対する新治術伝習のために開かれた。(中略)浪華仮病院および仮医学校は、改組・改称を経て大阪帝国大学へと発展し、現在の国立大学法人・大阪大学となっている。

### ★主な門下生(一部のみ抜粋)(順不同)

**大村益次郎**-村田良庵という名で入塾。日本近代陸軍を創設。靖国神社創建を献策。

**福澤諭吉**-慶應義塾の創立者。

**高峰譲吉**-科学者、発明家、実業家。世界初のアドレナリンの発見。胃腸薬タカジアスターゼで巨万の富を築く。

**大鳥圭介**-蝦夷共和国の陸軍奉行。明治後学習院院長。駐清公使。男爵。

**橋本左内**-若くして安政の大獄で処刑。

**佐野常民**-日本赤十字社初代総裁。伯爵。



大村益次郎



福澤諭吉



高峰譲吉



大鳥圭介



橋本左内



佐野常民

### ●五代邸(1885年) (以下、文は五代友厚 Wikipedia より抜粋引用)



(現：日本銀行大阪支店 Google map より作成)

★五代友厚の最初の自邸跡は、現在の大阪市西区靱本町にある「大阪科学技術館」である。昭和35年(1960年)まで残っていたが大阪科学技術センタービル建設により取り壊され、現在は大阪科学技術館として姿を変えている。新築自邸跡は、現在の大阪市北区中之島にある「日本銀行大阪支店」である。

★明治4年(1871年)12月から西区靱(うつぼ)北通1丁目(現・大阪科学技術センター)に居宅を構えた。料亭・加賀伊(かがい)(後の花外楼(かがいろう))で行われた大阪会議開催前に盟友・大久保利通が長期間宿泊し、碁盤を間に五代と向き合って日々談義したのはこの靱(うつぼ)邸である。

奥建物：  
大阪科学  
技術セン  
ター  
(Google  
Map より  
作成)



★明治18年(1885年)1月、中之島(現・日本銀行大阪支店)に邸を新築した。同年8月には東京で療養生活を送り始め、そのまま同年9月25日に東京で死去したためにこの邸で暮らした期間は短いものだった。五代の棺は東京・築地から横浜、神戸へと船で、さらに神戸から大阪まで汽車で運ばれた後、中之島の邸に運ばれた。中之島邸にて葬儀が執り行われたが、葬儀には大阪の恩人・五代を偲ぶ4千数百名の弔問客が訪れた。

### ◎近況報告「ラオスへ行ってきた」伊丹谷五郎会員

ラオスはフランスの植民地で、フランス料理やイタリア料理などもあり、食事がおいしかった。若い人が多く、街も活気があり、キレイだった。日本企業も多く進出している。人口730万人で平均年齢23歳位の若い国。日本の平均年齢は48才位。現地は34度位だったが、日本は14度位で寒く体調を壊した、とのことでした。

### ★ヴィエンチャンの食べ物

(会報担当：伊丹谷会員のお話では食べ物のことがイマイチわからないので、「世界で最も何もない首都・ヴィエンチャンの楽しみ方」より抜粋引用した。)

いち押しは麺料理。カオピアック・センは太目のコシの



ある麺に鶏の出汁が効いたさっぱりスープ。日本のうどんのような感じです。食後はラオス珈琲。フランス領だったラオスは、珈琲文化もヨーロッパスタイル。お洒落なカフェもたくさんあります。

ラオスも東南アジアですからとにかく暑い。(中略)メコン川沿いの通りではナイトマーケットが開かれています。ラオスならではのナイトマーケットの特徴は、パンの屋台が多いこと。フランス統治時代の名残はこんなところにもあるのです。



パンの屋台



どの街でも屋台は盛ん

### ★ラオス概要 (以下、文はラオス Wikipedia)



ラオス位置図 (Google Map より作成)

- ・通称ラオスは、社会主義共和制国家。首都はヴィエンチャン。
- ・経済面では1975年以降、社会主義計画経済のもとにあったが、ソビエト連邦のペレストロイカやベトナムのドイモイの影響を受けて1986年から「新思考」(チンタナカーン・マイ)政策と呼ぶ国営企業の独立採算制、民営企業の復活など市場経済化への経済改革を行っている。
- ・外交面では王政時代の1955年に国連に加盟し、1997年に東南アジア諸国連合(ASEAN)に加盟。1975年に社会主義体制になって以降ベトナムとの外交を軸にしてきたが、近年は中華人民共和国との外交を軸としている。

### ★ラオスの経済 (同 Wikipedia)

政府が1999年から2000年にかけてラオス観光年として観光産業の育成に努力した結果、観光産業が急速に発達した。観光のほか、国土の約半分を占める森林から得られる木材、ナムグム・ダムを始めとする水力発電の隣国タイへの売電、対外援助などが主な外貨源となっている。(中略)南部パークセー郡には日系中小企業向けの特区も開設されている。中国やタイなどの賃金水準が上昇する中、安い労働力を求める企業の注目を集めている。

### ★日本との関係 (ラオスと日本の関係 Wikipedia)

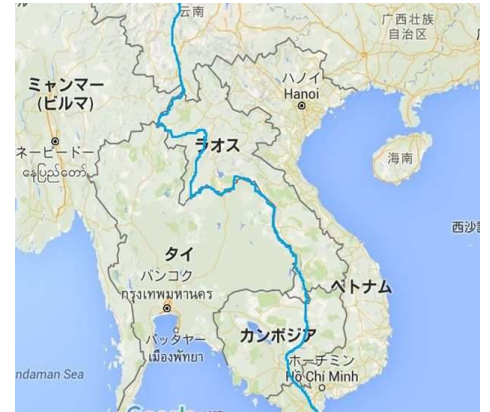
第一次インドシナ戦争終結後の1955年、日本はラオスと国交を樹立した後、1957年に岸信介首相(当時)が日本の要人として初めてラオスを訪問した。(中略)

1967年に佐藤栄作首相(当時)、2000年には小渕恵三首相(当時)、2004年には小泉純一郎首相(当時)がラオス訪問している。また、2012年6月には皇太子徳仁(当時、令和時代の天皇)がラオスを初訪問している。

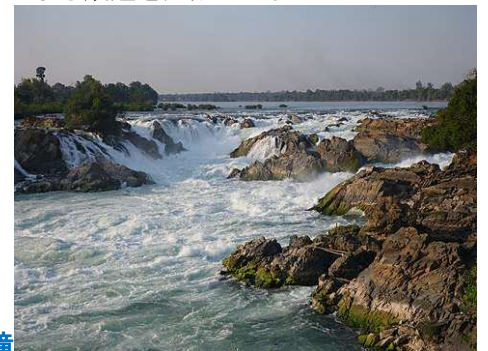
### ★メコン川

メコン川(以下 Wikipedia)はチベット高原に源流を発し、中国の雲南省を通り、ミャンマー・ラオス国境、タイ・ラオス国境など、およそ4200kmにわたって流れ南シナ海に注ぎ込む、東南アジアで最長の河川である。メコン川周辺(以下ラオス Wikipedia)には小さく平地が広がっている。メコン川はラオスを貫いて流れており、(中略)タイとの国境線の3分の2はメコン川である。また、国境として隔てるだけでなく、人や物が行き来する河川舟運にも利用されている。1866年にフランスは、雲南とサイゴンを結ぶ通商路としてメコン川を利用しようと探検隊を派遣した。探検隊は中国まで到達はしたが、カンボジアとラオスとの国境にあるコーンパペンの滝が越えがたかったため、通商路としての可能性は否定された。

青線がメコン川(画像引用元:ブログ「メコン川の水位低下からベトナムの可能性を再確認」)



★コーンパペンの滝(以下 Wikipedia)は、メコン川最大の滝。カンボジア国境からも近い。この滝の高さは15~21mほどと特別に高いわけではない。大小無数の滝が幅10,783メートルにわたって連続しており、世界で最も幅の広い滝として『ギネス世界記録』で認定されている。メコン川に沿った河川舟運が中国まで利用できない大きな理由の1つにもなっている。19世紀後半にフランス領インドシナによって、この滝を航行しようと何度も試みたが、いずれも失敗に終わった。そのため、デット島とコーン島との間に連水陸路となる鉄道を建設した。



コーンパペンの滝

以上

次回 第382回 通常例会 2023年6月14日(水)  
会場: ホテルモントレ大阪 12:00~14:00